

ドクターに聞きました

補聴器を使って快適な生活を

当院の補聴器外来では、難聴の方を対象に、聴力検査や障害部位の診断、聴覚機能評価、補聴器の装用指導などを行っています。今回は補聴器の基本とその活用法についてお話しします。

① 音は脳で感じる

音は耳から脳に伝わり、「音」として認識されます。難聴が進むと、耳の機能低下により脳への音の信号が減り、音を感じにくくなります。

② 難聴による脳の変化

年齢とともに難聴が進むと、脳は音が少ない環境に慣れてしまい、音に対する反応が鈍くなります。この状態を改善するには、補聴器で音を届け、脳を再び活性化させる必要があります。

③ トレーニングが重要

補聴器の使用に慣れるには、最初の3ヶ月が特に大切です。はじめは音がうるさく感じるかもしれませんが、徐々に

脳が慣れていきます。音量を段階的に調整しながら使い続けましょう。

④ 補聴器を選ぶポイント

補聴器は聴力に合わせて選ぶことが大切です。特に耳の形にぴったり合う「イヤモールド」を使用すると、音漏れやハウリング（ピーという音）を防ぐことができます。聞こえの力によってはイヤモールドが必須になります。

⑤ トレーニングの継続

補聴器をつけ続けることで、音に対する違和感が減り、生活が快適になります。街中や公園など音が多い場所にも出かけて、積極的に音に慣れていきましょう。



(上) 通常の耳栓
(下) イヤモールドの例



一枝クリニック院長
江島 正義先生
(耳鼻咽喉科担当)

⑥ 認知症予防の効果

難聴は認知症のリスク因子として注目されています。補聴器を使用することで脳が活性化し、認知症の予防に役立つ可能性があります。

⑦ 補聴器が向いている方

補聴器は「聞こえにくくて困っている」「もつと快適に暮らしたい」と考える方に効果的です。たとえば、次のような希望を持つ方に向いています。

- 子どもや孫と楽しく会話したい
- 家族と一緒にテレビを楽しみたい
- 会合や集まりで話が聞き取れるようになりたい
- 人とのコミュニケーションを大切にしたい

⑧ 補聴器の相談はどこで??

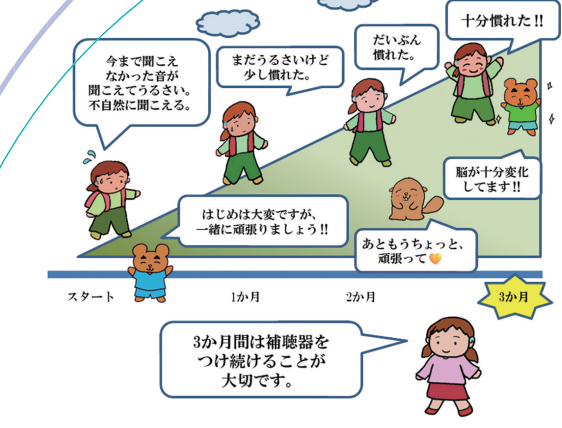
補聴器について相談するには、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定の「補聴

日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医、日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医。補聴器適合判定医師研修会を修了し、難聴でお困りの方が「なくてはならない補聴器を手に入れて幸せになる」ために、補聴器診療をしています。



一枝クリニック
耳鼻咽喉科・小児科
北九州市戸畑区一枝 2-3-26
TEL 093-616-2812

3ヶ月間の補聴器トレーニング



さらに、実際に補聴器を装用し、補聴器の効果確認や、音に慣れるためのトレーニングを受けるのも重要です。「補聴器適合検査」を行っている耳鼻咽喉科の受診し、アドバイスを受けましょう。

器相談医」が在籍している耳鼻咽喉科を受診するのがおすすめです。ここでは聴力検査や障害部位の診断、補聴器の選び方など、専門的なアドバイスが受けられます。